

編集後記

この号が読者の皆様のお目に掛る頃は既に涼しい季節となっていることだろう。しかし今はまさに盛夏である。特に私の住んでいる瀬戸内海沿岸には夕風があり、1日のうちで最もむし暑い夕刻から20時ごろにかけて風がピタリと止ってしまう。「風」は大変意味のよくわかる漢字である。その間はじっと動かないようにして時間の経つのを待っているしか無い。涼しい風が吹きだすと人間も含めた諸動物は生きかえったように動き出すのである。

さて気象の話はこれくらいにして本号の内容を通読して感じた事をここに2, 3記してみたい。

この号は「生活関連用具」の特集である。大川氏には生活関連用具の概説を書いていただいた。用具の目的・用途をはっきりさせ、さらに助言者の用具に対する考え方を持つべきである点を示し、市販品の中からできるだけ多くのものを選ぶように述べられている。多くの実績に裏づけられた大切な意見だと思う。

畠山氏の「環境制御装置」以下は、現在の生活関連用具のトピックスを集めたもので、いずれもその先端に行くものの紹介がしてあり興味深い。

まず「環境制御装置」についていつも思う

ことは、いかにも名前が大げさな点である。現在の所は「自動スイッチを用いたADL介助用電気器具のアセンブリー」というのが正直な所であろう。名前はとにかく特に重度の障害者で使いこなしている方は、これが無いことを想像すれば、その価値は十分に認識される。

奥氏らの「コミュニケーション・エイド」はワードプロセッサの進歩により次々と便利なものが考えられていることがわかる。人間の社会的動物としての存在に最も大切な意志疎通が能率よく行えるようになることはリハビリテーション関係者の誰もが考える事である。

市川氏の移乗用具は人間のADL自立に大きな意味を持つ分野であり現在のものの機能に加え将来の発展も期待できる。

東嶋氏らの市販品リストの作成は近くでその作業を見ている大変な事だった。少なくとも商品が削除されたようだが、平生、百貨店などでも油断なく注意することが大切であり、氏らの労作に感謝したい。

他に研究と報告2編、講座2編、紹介1編、と盛り沢山であり、本号も読者の期待に沿えるものと確信している。

(明石 謙)

編集顧問

天児 民和
大島 良雄
河邨 文一郎
五味 重春
砂原 茂一
津山 直一
土屋 弘吉

編集委員

明石 謙
上田 敏甫
緒方 甫雄
大井 淑雄
大川 嗣雄
千野 直一
横山 巖

編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲夫
岩倉 博光
江口 壽榮夫
小川 孟
荻島 秀男
奥川 幸子
加倉井 周一
小島 蓉子
斉藤 正也
笹沼 澄子
澤村 誠志
高橋 勇
高松 鶴吉
武智 秀夫
土屋 和夫
土肥 豊
永井 昌夫
中村 隆一
野島 元雄
野村 欽
長谷川 恒雄
初山 泰弘
福井 園彦
松村 秩
三島 博信
矢谷 令子
米本 恭三
渡辺 英夫
(五十音順)

(細田, 山田)

次号予告 (第13巻 第10号)

特集	末梢循環障害	
	末梢循環障害：総論……………東京医歯大・第二外科	三島 好雄
研究と報告	末梢血管疾患と病態生理……………北大・第二外科	安田 慶秀
	末梢循環障害の治療……………山口大・第一外科	江里 健輔
症例報告	血管原性切断のリハビリテーション：その過程における問題点の検討……………横浜市	大川 嗣雄・他
	末梢循環障害による切断：特に末梢循環障害の切断術について……………九州労災病院	吉村 理
講座	片麻痺患者の肩関節亜脱臼……………慶大	野田 幸男・他
	股関節亜脱臼をきたした脳卒中後麻痺の1例……………産業医大	森田 秀明・他
一頁講座	小児両側大腿切断の2例……………栃木県身障福祉センター	猪飼 哲夫・他
	リハビリテーション医に必要な全身管理	
	(10) 水・電解質バランス……………慶大月が瀬リハセンター	木村 彰男
	高次神経機能の評価法	
	(2) 失認の評価法……………横浜市	大川 嗣雄
	義肢のパーツ	
	(10) 義手のハーネス……………愛媛大	首藤 貴